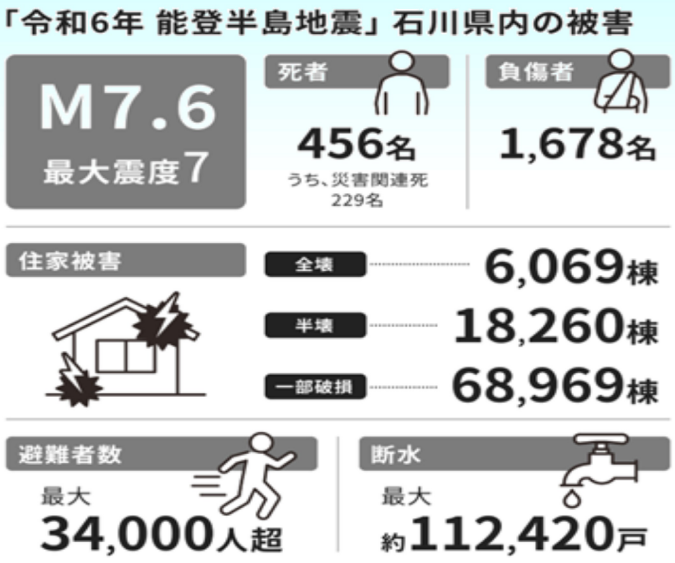
能登半島地震から
「もう1年」
「まだ1年」



おたき

第688号
毎月発行
教宣部
機関紙委員会
発行責任者
菅野　敏

閲覧用QR

２月３～４日の２日間に渡り、移動教宣部長会にて令和６年能登半島地震で被災した能登半島中央部の石川県七尾市へ復旧・復興の現状を視察してまいりました。
私は大規模な震災に遭った経験がなく、大地震の被害に遭うとはどういうことなのか家がどうなってしまうのか街はどうなってしまうのかを自分の目で見て聞いて感じた事を少しでもお伝えしたいと思います。
元旦の地震で金沢市内では震度５強を観測しており、住宅が損壊し、がけ崩れや液状化の被害も発生したと伺っていましたが金沢駅に到着してまず感じた事は、観光客も多く市民生活もすでに日常を取り戻しており、地震の痕跡は全く感じられませんでした。
金沢市より観光バスに乗り込み七尾市に向かう際、ガイドの方が被災者の方の配慮の為、写真撮影は代表者１名が行ってくださいとお話があり、視察と言う名の見物にならない様にしなくてはならないと身が引き締まる思いでした。七尾市に近づくにつれて未だに道路の損壊箇所があり、復旧工事が行われておりました。
歴史を感じさせる老舗などが約４５０メートルにわたって並ぶ石川県七尾市中心部の一本杉通りに到着して、この地に古くから伝わる婚礼文化「花嫁のれん」を紹介する「花嫁のれん館」を見学し、１本杉通りを歩くと能登半島地震から１年以上たった今も、倒壊したり、外壁がはがれ落ちたりした建物が地震直後のままの姿で残っており、応急危険度判定で「危険」を示す赤紙が年月で色が抜けて白くなってしまっていたのが印象的でした。では、なぜ復興が遅いのでしょうか？その背景には以下のような要因が挙げられます。

地理的要因による支援の遅れ

県庁所在地が100キロも離れている奥能登では、支援力にも差ができます。そして、能登半島は交通アクセスが限られている地域であり、主要な道路が寸断されたことで、復旧作業に必要な重機や資材の搬入が難航し、結果的に復興が進まない理由のひとつです。右の写真は震災直後に撮影されたもので、我々が七尾市に向かう際に利用した能登へつながる大動脈の自動車専用道路「のと里山海道・七尾市」の写真になります。昨年９月に未だに道路状態が悪い箇所もありますが全線復旧工事が完了したそうです。

人口減少と高齢化による影響

能登半島の若者は、高校を卒業するとほとんどが金沢市か県外へ出てしまうため、人口減少に歯止めがかからず高齢化が進行している地域であったため、若手の担い手不足が復興の足かせとなっています。被災した家屋の修繕やインフラ整備を行う労働者が不足しており、外部からの支援にたよらざるを得ない状況ですが、能登半島では宿泊施設が軒並み被災して営業できなくなった為に金沢市などから何時間も掛けて往復することを強いられており、１日に作業できる時間が短くなることから復興の遅れにつながっております。

行政の対応力不足

震災が起きた後、自治体は迅速な対応を試みたものの、２０００年代に「平成の大合併」があり、市町の職員数が大幅に減っており、２００５年から２０年の間に表1で明らかなように職員が減少しており、その減少率は人口減少率より大きくなっております。限られた数の職員と予算の中での対応には限界がありました。さらに、自治体合併による公共事業の減少により建設業者が減少してしまったのも復興の足かせになっております。

表１　石川県被災地の市町別職員数及び人口増減率

	市町職員数（一般行政職）				人口
	2005年	2020年	増減数	増減率	増減率
金沢市	1,793	1,655	-138	-7.7%	2.0%
七尾市	561	385	-176	-31.4%	-18.6%
輪島市	385	270	-115	-29.9%	-25.0%
珠洲市	233	166	-67	-28.8%	-28.3%
穴水町	96	86	-10	-10.4%	-25.1%
能登町	310	207	-103	-33.2%	-28.0%

能登半島地震の復興の遅れは上記以外にも様々な要因はあると思われます。この問題を解消するためには、地域一丸となって復興に取り組み、行政・住民・支援団体の連携を強化し、効率的かつ効果的な復興策を実行することで、これまで以上に魅力のある能登半島を作り上げることができるはずだと思います。

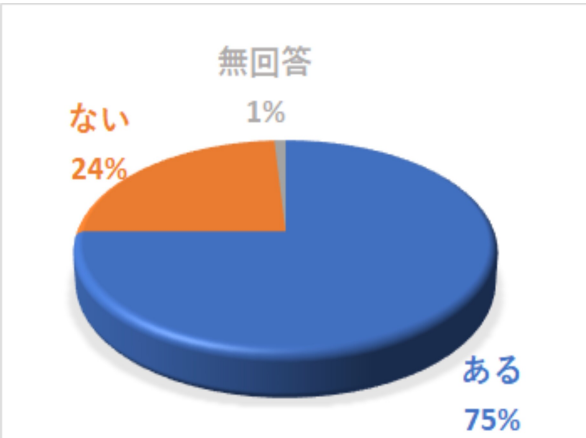
震災後「仕事辞めたい」５８％

人員不足による業務多忙、カスタマーハラスメントは深刻

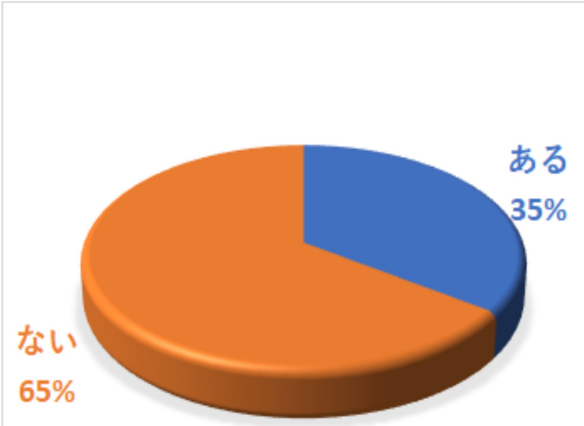
被災自治体の厳しい現状

能登半島地震で大きな被害を受けた奥能登４市町と七尾市の職員に向けたアンケートで半数以上の方が災害対応で長時間労働、業務の増加。肉体的、精神的な負担に限界を感じているとの回答があり、過労死ラインを越えた方が過半数に上りました。また、住民からの執拗なクレームや不当要求行為の実態が判明したほか、驚くことに５８．１％の方が「地震のあと仕事を辞めたいと思ったことがある」に回答がありました。カスタマーハラスメントが職員へ悪影響を与えてることが下記のデータから読み取ることができます。

「仕事を辞めたい」と思ったことがあるか？との問いに対し、



【カスハラ被害「あり」】



【カスハラ被害「なし」】

被害体験「あり」と「なし」で倍以上の差がでました。

カスハラ問題は深刻です。災害対応の最前線を担う自治体職員も被災者なのです。自分が犠牲になって頑張れば済むと思っている職員が多いそうですが、心身ともに限界にあり、職場では先の見えない不安から休職者・退職者が増えているのが現実です。様々な問題の根幹は「人員不足」があることは明らかです。住民のカスハラもある程度は理解できますが、復旧・復興には自治体職員の存在が必要不可欠であり「組合員を守ること＝地域を守ること」と言えるのではないでしょうか。

ＳＮＳに騙されないで！！

ＳＮＳでは、解体が進んでいるのに赤枠をズームすることで「これしか復興していない」のような悪質な投稿もあるが全体で何が進んでいて何が進んでいないのか。切り取られた一部だけの投稿ではないのか等を注意する必要があります。
最近ニュース等で扱いが少なくなりましたが、地元紙のニュースや地域の方のＳＮＳ、国や自治体が最新の情報を提供していることは数多くあるので、是非関心をもって見て頂きたいです。

ようこそ小滝橋営業所へ

①現住所 → ②前職 → ③趣味 → ④特技 → ⑤皆様へ

① 府中市
② 京王バス　府中営業所
③ 旅行、社会人野球観戦
④ 水泳
⑤ 戦力になる様、頑張ります！
よろしくお願い致します

選挙だョ！全員投票

おたき

第687号
毎月発行
教宣部
機関紙委員会
発行責任者
菅野　敏

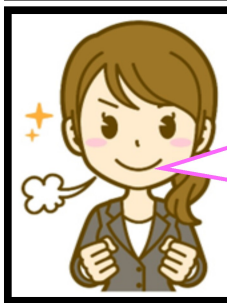
閲覧用QR

２０２５年は、「選挙イヤ～」ですよ～
今年は、都議選・参院選が重なるんです！

へーそうなんだぁ
でも選挙に行くの
めんどくさいし
興味が無いんだよ
な～

私達の労働条件の大元は、
法律で定められてるでしょ！
だから、国政の場で物事を
変えていかないと！

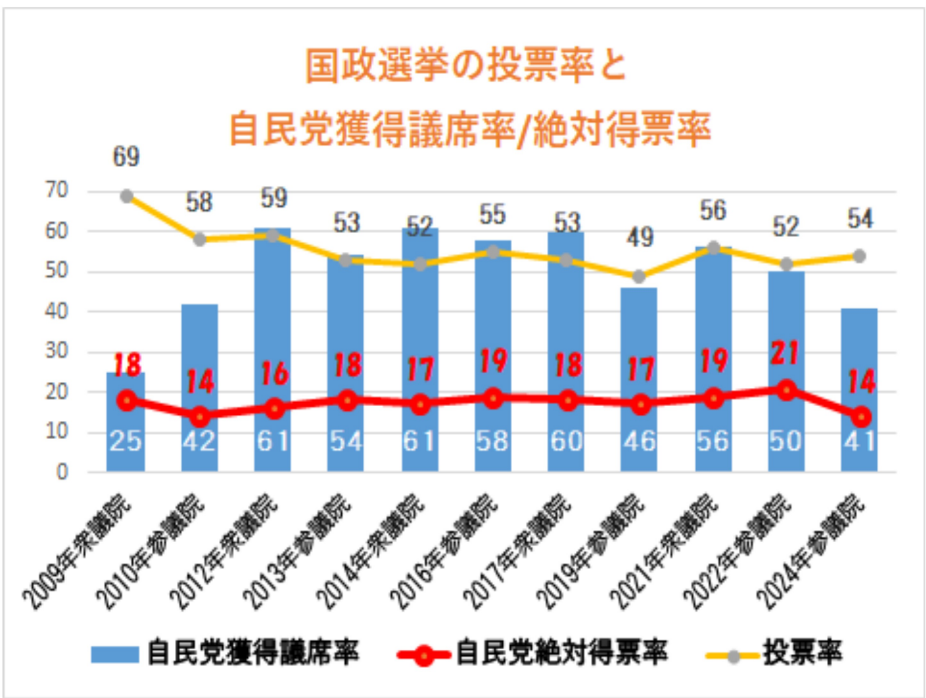
そんなの無理だよ！
投票しても変わる
気がしないよ

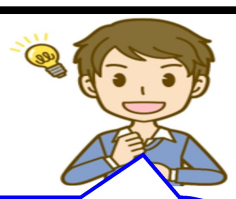


確かに今のままじゃダメよね。
だから私達の意見を聞いてく
れる仲間を増やして政権交代
をする必要があるの！

どうせ自民党に投票
する人が多いし政権交
代なんて無理じゃない

ちょっとこのデータを
見て！
自民党に投票してる人
はいつも２０％に満た
ないの。だから投票率
の高かった２００９年
は政権交代があったで
しょ！

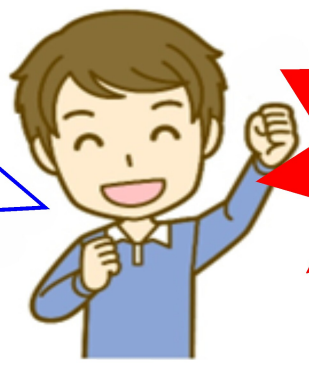




そうか！投票率
が低いと固定票
が有利に働くっ
てことか！

そう！
投票率が上がれば
政治を変えること
が出来るってこと！

友達にも
家族にも
職場の仲間にも
声を掛けて



必ず投票に
いくぞー！

都議会議員
選挙は私たち
に直接影響す
る大切な選挙
です！

陸上自衛隊日記

第２回は、「芸は身を助ける」「無理は禁物」の２話になります。どうぞ最後までお楽しみください。

芸は身を助ける

芸は身を助けると言いますが、これは本当の話です。
皆さん、銭形平次の主題歌を知っていると思います。この歌を歌わせたら本家本物と間違えるくらい上手い同期がいました。その同期は面白おかしく、前奏から「ボン、ボボン、ボン、ボン、ボン、ボボン、ボン、ボン」と始まりソックリそのままに歌い上げるのでした。これには、いつも厳しい教官も大変に喜び、同期が声を嗄らしダミ声になるまで、また飽きるまで銭形平次を歌わせました。その同期が居たおかげで山の中で何度も助けられました。意地の悪い教官、助教のご機嫌を取るには笑いの取れる芸が一番の特効薬なのです。
しかし幸福はそう長くは持ちませんでした。３泊４日の飲まず食わず眠らずの想定中、意地の悪さでは右に出る者が居ないと言うような助教が「銭形平次はもう飽きた、水戸黄門をやれ」と始まりました。「笑いが取れたら水筒の水を１本くれてやろう」この一言で、同期１１人は、何しろ笑いを取ろう、これ以上水を飲まなかったら死んでしまう。
必死の覚悟で臨んだ水戸黄門でしたが、見事に笑いが取れず、二昼夜飲まず、食わず、眠らず、極限状態の目の前で意地の悪い助教は水筒の水を勢いよく捨てました。「笑いの取れないお前が悪いんだ」と捨て台詞を吐きながら。
これには、自分たちは参りました。１１人皆が声を出さずポロリと涙を流しました。悔しさ、惨めさで胸がいっぱいになり、またキレて暴れようにも暴れる力は、誰一人残っていませんでした。その涙を皆で目を合わせながら、ペロリと舐めました。自分の隣にいた同期は「あの助教、死んで恨んでやる」と目の玉を三角にして言いました。
今、思い出しても頭に血が昇る出来事ですが、結局、助教は笑いの取れる芸なんてどうでも良かったのです。水筒の水をいかに悲しく、悔しく捨てることしか頭になかったのです。出来レースと判っていても、もしかしたら水が飲めるかもしれないと思い水戸黄門を歌ったのですが、まさか水の泡になりました。
そこで話は最初に戻ります。「芸は身を助けます」これは絶対。
皆さん、芸を磨きましょう。何でもいいんです、歌に限らず、酒飲みでも、スポーツでも、パチンコでも、この人にやらせたら、かなわないと言うような。

無理は禁物

どんな職業でも、病気は付き物です。運転台に座りっぱなしのドライバーは腰痛になったり、パソコンと戦う仕事の人が、目が疲れたり肩がこったりするのは、避けて通れない病気なのかも知れません。
私の４年間の兵役で苦労した病気は水虫でした。何しろ朝から晩まで、ひどい時には、３日間も靴の紐を解かない時がざらにありました。桜のマークの入った「刑務所製造」の安全靴の名前は、半長靴と言いまして、とても蒸れる性格の靴でした。夏は暑く、冬は凍えるように冷たくなる、オールシーズンまるで逆さまな、とても丈夫な靴でありました。兵隊３年目、夏の頃です。いつもの様に訓練が終わり、幼稚園のプールぐらいある風呂に入り終わった時、どうも右足の機嫌が悪い事に気づきました。いつもの痒さと全然ちがうなと思ったのですが、風呂上がりに偶然会った同期と晩飯も食わずに隊内クラブへ足を引きずりながら、呑ちゃん騒ぎをしていました。隊内クラブとは、鉄柵の中で１軒だけある桜マーク防衛共済会直営の飲み屋であります。店がカンバンになり、勘定を済ませると、右足は動かず、さほど飲んで無いのに、身体中が熱くなっていました。
こりゃ、いつもと違う、なんて気が付いた同期に背負われて、衛生室まで来た所で、自分の記憶はプツンと切れていました。気が付いたら隣の部隊にある陸上自衛隊富士地区病院のベッドの上でした。
目を覚ましたのは、次の日の朝で、看護婦さんに体温を測って貰っていました。看護婦は非常に困ったような顔つきで「大丈夫」なんて云っていました。驚いた事に体温計のメーターが振り切る手前まで熱がありました。どうやら、右足の水虫の傷から強烈な細菌が入り込み、右足の付け根のリンパ腺は睾丸のように、腫れ上がり戦闘不能な状態でした。自衛隊が誇る最新鋭の抗生剤の点滴で何度も血液検査を受けながら５泊６日の公傷。不名誉な入院でした。
小隊長は怒るに怒れないような顔つきで「水虫を舐めてかかるな」なんて言いました。
自分は返す言葉が見当たらなく、点滴の中間地点を見つめていました。退院してからが大変です。連隊中の同期、先輩から「水虫、大丈夫か」なんて、暫く言われていました。ここで、話の詰めに入ります。「無理は禁物です」幾ら、お仕事が休めない状態でも本当に身体が悪い時は無理をしないで下さい。取り返しのつかない事態に成った時を想像して下さい。「世の中、水虫で入院する馬鹿もいるのです」

著者　小森　実
昭和38年5月26日生
平成3年10月　入局

座右の銘
ドブに落ちても根のある奴は
いつかは、鉢巻の花と咲く

第27期レンジャー養成教育　S59.7.8～9.4